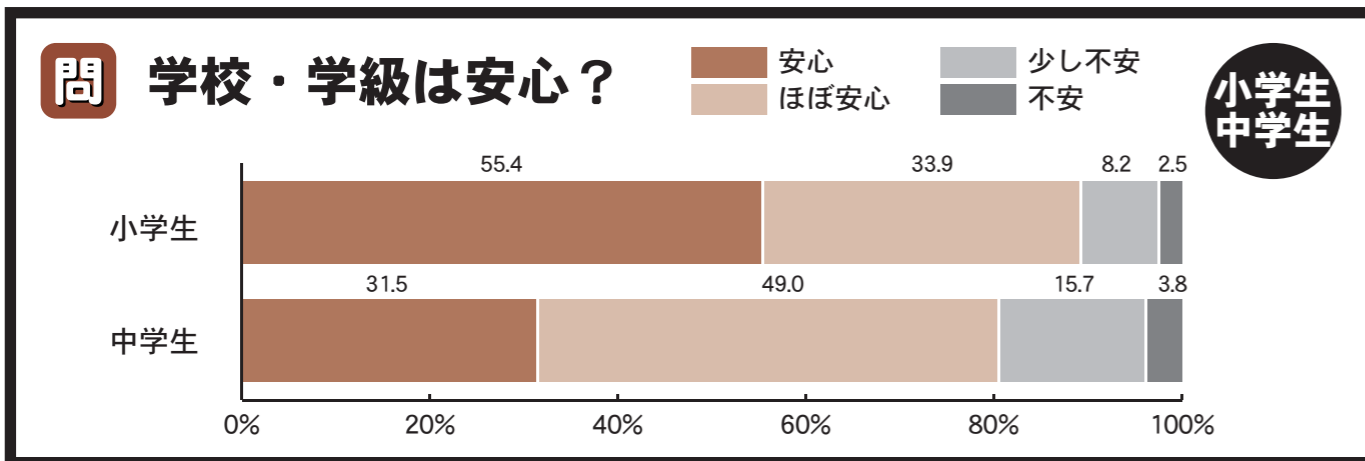
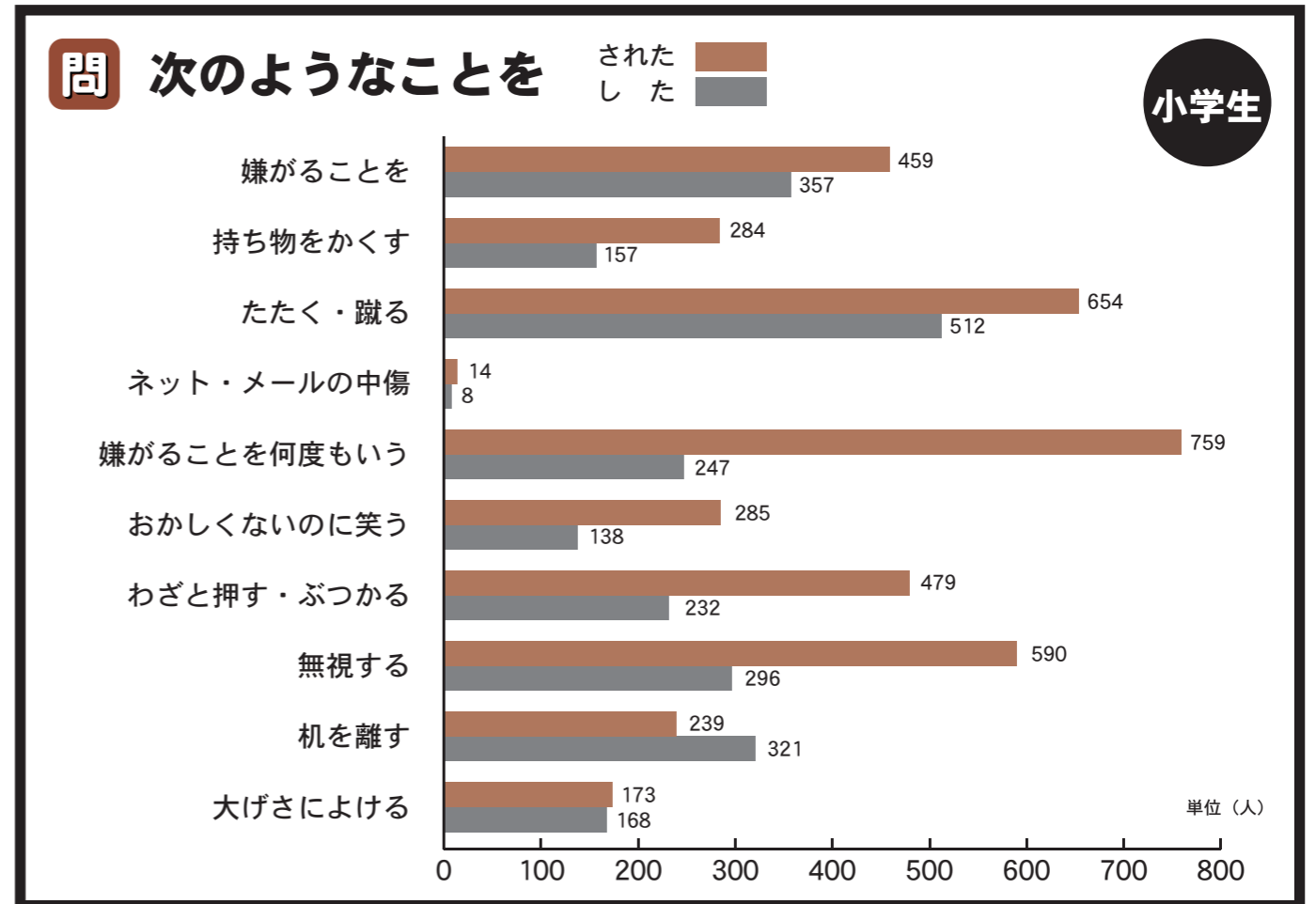
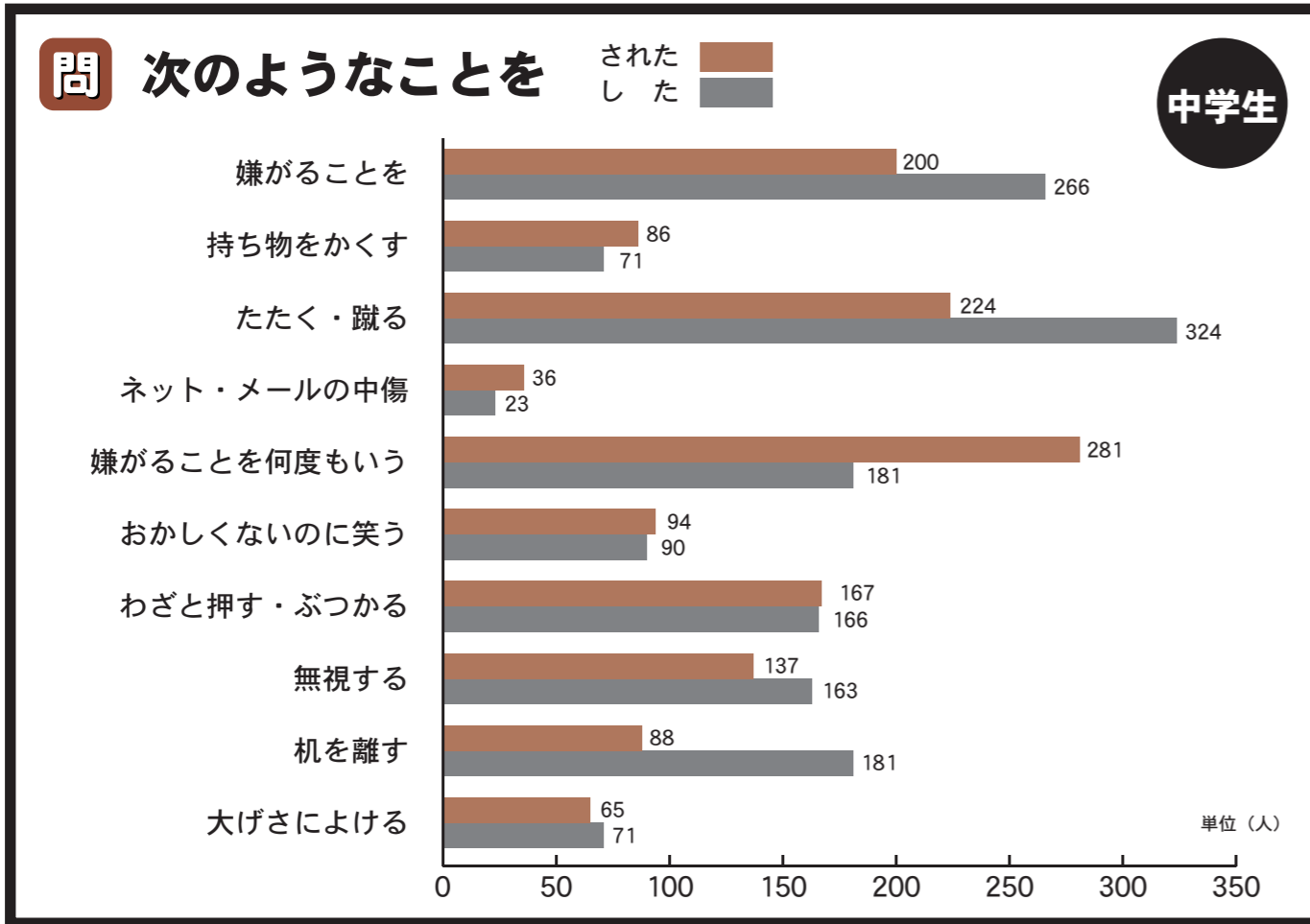


子どもたちが感じていること

いじめアンケート結果から

児童生徒たちが、普段の学校生活において「いじめ」に対してどのように感じているのか、その実態を把握するため、市教育委員会では今年6月、「いじめに関するアンケート調査」を実施しました。

特集
「いじめ」問題
どう取り組み



「いじめ」アンケート

「安心して過ごせる学校を目指して」と題した、いじめに関するアンケート。市教育委員会が今年6月、市内の全小中学校（小学校22校・中学校10校）を対象に実施しました。対象者は6,456人（小学生4,250人・中学生2,206人）。設問は、「次のようなことをした（された）ことがあるか?」と「学校は安心ですか?」。

相手のことをしっかり考え、人との関わり方やコミュニケーションについて、児童生徒が自ら意識することが必要です。当然、周りの大人もしっかりとサポートし、見守る必要があります。そして、大人が人との関わり方についての手本を、児童生徒にしっかりと見せることが大切だと考えています。

大人が手本を見せることが大切

小学校に件数が多いのは、まだ発達段階にあることから、自分の気持ちを伝えたり相手の気持ちを考えたりすることが十分でない場合が多いと考えられます。子どもは、このような経験を通してコミュニケーションの力や人との関わり方が発達していくのだと思います。

「無視をしていない」と思っていますが、された本人は嫌な思いをしている場合が多い。お互いに何らかの意思疎通があれば、嫌な思いもずつと少なくなるはずですが、小学校に件数が多いのは、まだ発達段階にあることから、自分の気持ちを伝えたり相手の気持ちを考えたりすることが十分でない場合が多いと考えられます。子どもは、このような経験を通してコミュニケーションの力や人との関わり方が発達していくのだと思います。

コミュニケーション不足が原因

小さなトラブルは、児童生徒のコミュニケーション不足から発生します。同じ質問項目でも「した」「された」と述べる児童生徒に開きがあるものがあるからです。

文部科学省の「いじめ」の定義からすると「大げさによけられた」「無視をされた」などと回答した児童生徒は、「いじめ」を受けたと判断できます。そうすると、今回の調査では延べ400人以上がいじめを受けたこととなります。そのほとんどは日常的に発生し直ちに解決したケースではあるものの、児童生徒、そして大人もこの件数をしっかりと受け止める必要があります。児童生徒にとって小さなトラブルは連日のように発生し、この中から深刻な「いじめ」へとつながる可能性があるからです。



市教育委員会
生き生き学校支援室
まさみ
鹿野 征美 指導主事

アンケートの結果から見えること
受け止めることが必要